

## (26) 貝毒対策としての海底耕耘効果調査

### 予算

貝毒対策としての海底耕耘効果調査

### 概要

大阪湾東部海域（大阪府海域）では麻痺性貝毒原因プランクトンの増殖規模は年々拡大し、2006年には底曳き網漁業で重要な漁獲物であるアカガイで、2007年にはトリガイで初の毒化事例が確認された。近年では両種がほぼ毎年毒化するとともに毒化期間も長期化し、2018年には2月中旬から9月中旬まで半年以上出荷自主規制の措置が執られた。そのため、麻痺性貝毒による漁業被害を防止するための早急な対策が求められている。そこで、貝毒が発生する前（1月下旬～2月）に海底に沈んでいる無毒な珪藻（プランクトン）を海底耕耘により巻き上げ・増殖させ、競合によって貝毒原因プランクトンの増加を抑制することが可能か効果を検証した。2019年春季の調査結果から、海底耕耘の時期を早め、堺市沖に新たに耕耘海域を追加して実施した結果、2020年春季の*Alexandrium tamarense*の増殖は低レベルで推移した。2020年の結果は一見十分な効果を示したようにも見えるが、海域環境は前年と大きく異なるため、事例を重ねることで正確な効果検証を行う必要があると考えられた。

### 担当者

山本圭吾、上田真由美